

金大中氏を救出しよう!

死刑求刑糾弾 / 政府は政治決着の責任を取れ!

新 生

号 外

1980.9.15

社 志 立 行

〒143 東京都大田区大森北
1-16-8 大森朝日ビル
☎03-766-4179(代)

郵便振替
東京0-70702
銀行振込口座
平和相互銀行大森支店
0925356

毎月1日、15日発行
1部 150円
(通常8ページ)

24回(1年) 共計3600円
(密封共計4000円)

すべての勤労者・学生・市民のみならず！
韓国の元大統領候補・金大中氏は、九月十一日の軍法会議で死刑を求刑された。全斗煥派によるこの暴挙を怒り
を込めて弾劾する。わずか一ヶ月足らずの審理による極刑策動をなんとしても阻止しよう。全斗煥は金大中氏ら多く
の民主人士のまっ殺の企てをすすめながら、「大統領」に就任した。全斗煥はこうして、民衆の民主主義と祖国統一
の切実な願いを踏みにじるファッショ専制の道―第二の維新体制に名実ともに踏み込んだ。一方、今わが国では、
金大中氏ら救出の大きな国民世論が形成されつつある。これは同時に、「政治決着」によって金大中氏の原状回復を
はからなかつたわが国政府への非難の声でもある。一千万人署名運動等を通じて、国民の総意を幅広く結集し、金大
中氏らを必ず救出しよう!

金大中氏らを救出しよう! 全斗煥は即時退陣せよ!



この間の軍事
法廷の中で、金
大中氏は、五月
十七日に連行さ
れて以来、二ヶ
月にわたる拘留
期間中、陸軍刑
務所の地下室で
一日十五時間も
の取調べを受け
、拷問に等しい扱いを受けたと証言した。また、「暴力
騒乱」や「政府転覆計画」、「扇動」の事実をなかつ
たと起訴事実を否定し、起訴状のウソとデッチ上げを
暴露した。

金大中氏は「平和的政権交代」を主張し、韓国社会
の民主化と祖国統一のための政治活動を行い、それが
多くの人々に支持されてきたことは、すでに周知の事
実である。

軍事裁判はすでにすべての審理を終えており、今月
中旬にも一審判決で極刑が下されるおそれがある。そ
れほど事態は切迫しており、救援運動のより一層の高
まりが求められている。さらに努力を傾注し、金氏ら
救出の世論を高めよう!

一方、全斗煥は釜山夏を強引に大統領から引きずり
おろして、維新憲法の下で「統一主体国民会議」によ
って「大統領」に選出されるという茶番を演じた。崔
「政権」がとてなえてきた改憲による大統領選という公
約は紙くすのように反故にされ、いかなる意味におい
ても民主主義に敵対する「政権」が民衆の生き血をす

すべて誕生してきた。

全斗煥「政権」はこの間、学生運動、労働争議の禁
止、言論の自由の封殺と、朴正熙を上まわる暗黒政治を裏
行している。光州蜂起の民衆を血けらのように殺りくし、
同胞を銃剣で押さえつけ、「北の脅威」をふりかざし国家
安保の下に民族の分裂を合理化する全斗煥一派。第二の維
新体制というべき全斗煥派による軍事専制支配は決して
安泰や安定をいえない。必ずや朴の運命と同様、歴史の無慈悲
を審判が下されるであろう。

日本政府は政治決着の責任をとれ!!

この全斗煥「政権」をわが国政府はなしくずしに承認し
よとして、日韓ロビイストの親玉春日や元防衛庁長
官(元)による全斗煥への支持―新たな日韓ロビーの形成
は国民感情を激しく傷つけた。決して許されぬ。政府は、全斗煥
への「助のラコ」を止めよ! さもなければ、それによ
って生じた結果の責任を負わなければならない。

この間の金大中氏救出の国内世論の高まりは、伊東外相
の「金大中氏が死刑にかけられ、政治決着を見直さざるをえ
ない」という発言をひき出した。裁判でも「政治決着」の
内容によれる金大中氏の海外活動に最も重い国家保安
法が適用された。政府の責任はきわめて重大で
ある。

政府は「政治決着」が金大中氏の運命に大きな影をお
として、いかに深刻な反省をすべきである。政府が「政
治決着」の責任を決してあきらめないように、そして
そのために金大中氏の起訴撤回と安全保障のために外
交努力をするよう厳しく迫らなければならない。

一千万人署名に全力で取り組む。在日韓国大使館・日本
政府・外務省・米政府などに抗議の声を集中し、金大中
氏ら救出、全斗煥退陣、韓国の民主和闘争連帯、朝鮮の自
主的平和統一支持の国民世論を盛り上げよう!

金大中氏らの軍法会議中止 即時釈放を訴える国民大会(仮)

日時・九月一七日(水)午後六時
場所・日比谷野外音楽堂
主催・金大中氏救出日本連絡会

合併号
第2829号
の内容

新 生

を 読 む こ う !

- ☆ 報告 8・24-29 カンボジア教授・支援集会 大成功
- ☆ 特別寄稿 最近の韓国情勢と金大中問題 宇部宮徳馬(参議院議員)
- ☆ 投稿 「大義もなく、親もなし」 伊藤律問題に寄せて―元日共黨員
- ☆ 論評 あまりにも恣意的なカンボジア報道 井川一久(朝日新聞記者) 批判

9.17